

令和4年度 日本大学危機管理学部 個人研究費 研究実績報告書

所属：危機管理学部 危機管理学科

資格：准教授

氏名：瀧川修吾

<p>研究課題名</p>	<p>(1) 幕末から明治初年における征韓論・アジア雄飛論の研究, (2) 現代行政の諸相 (日本の国際化と外国人政策に関する研究, 権利擁護を支える制度) (3) ディスタンスラーニングの研究等</p>
<p>研究目的及び研究概要</p>	<p>今年度も引き続き, 平和研究のための政治史・思想史研究として (1) 幕末から明治初年における征韓論・アジア雄飛論の研究に取り組んだ。また, (2) 現代政治や行政に関する知見も深めるべく, これまで取り組んできた日本の外国人受け入れ政策に関する研究や, 権利擁護を支える制度につき, 引き続き研究を深めた。さらに, コロナ禍における喫緊の課題として (3) ディスタンスラーニングの研究を, 鋭意進めた。</p>
<p>研究実績の概要</p> <p>研究の進捗状況・得られた成果・今後の課題・研究実績等</p>	<p>まず (1) では, 「徳川斉昭の対外強硬論に関する考察—「十条五事建議書」の本音と建て前」を年度末に刊行した (通信教育部『研究紀要 第35号』2022年3月)。刊行のめどは立たないが, 続編のための研究は継続中である。また, (2) とも関連するが, 浅野一弘編『歴代自民党総裁のリーダーシップ 第1巻—総裁代行委員～第4代総裁—』 (学文社) で池田勇人の執筆を依頼されたため, 鋭意研究を進めている。</p> <p>次に (2) では, 渡邊容一郎編『Next教科書シリーズ 政治学 第3版』 (弘文堂, 2023年2月) において「第14章日本の行政」を新規に書き下ろした。これは2023年度より危機管理学部で開講される「行政学」のテキストとして使用することを前提にしたものである。また, 森長秀編『法学入門 第2版』 (2022年11月) でも引き続き「第9章行政法 (1)」を担当し, 7年余りの時間の経過に合わせ, 大部分を書き直した。</p> <p>また, 2023年1月20日には, 大阪公立大学大学院都市経営研究科において「日本における外国人受入れ政策の歩みと課題」というワークショップの報告者を高宅茂先生と共に務めさせて頂いた。</p>